

## 審美領域におけるインプラント補綴のコンセンサス

小宮山 彌太郎<sup>a</sup>, 市川 哲雄<sup>b</sup>

### Consensuses on Implant Restoration in Aesthetic Zone

Yataro Komiyama DDS, PhD<sup>a</sup> and Tetsuo Ichikawa, DDS, PhD<sup>b</sup>

インプラント療法に限らず、補綴処置に対して長期間にわたる機能的のみならず審美的にも良好な結果を求める患者が増えている。オッセオインテグレーションの概念を礎とするインプラント療法にあつては、適切に施術されるならば、周囲組織の形態や性状を安定した状態に保ちやすいことが知られてはいるものの、それはすべての条件が整った場合にはじめて可能となる。

ことに、解剖学的な制約を受けやすいことが治療を困難なものとしやすい審美領域への適用に際しては、診断から最終的な補綴装置の装着、さらにはメンテナンスに至るまで、より細心の配慮が不可欠となり、きわめて高度な知識と技術とが要求される。すなわち、患者が結果に何をどの程度、期待しているのかの要望をしっかりと把握したうえで、詳細な診察・検査を行い、それをもととした厳密な治療計画の立案、ならびに細心の外科学的小よび補綴学的手技による施術に加えて、短期間の審美性の回復のみに目を向けることなく、最終的には中長期的な回復の維持に視点を置いた補綴学的観点からの総合調整が求められる。

本シンポジウムでは、審美領域におけるインプラント治療が、長期間にわたり患者の要求を満たすための要点を経験豊かな3名の先生に講演いただいた。塩田 真先生（東京医科歯科大学）には治療の成否を左右する診察・検査に続く治療計画の立案、そしてその適用を解説いただいた。石川知弘先生（東海支部）からはインプラント埋入に先立つ骨造成を含めての卓越した外科的手技をご自身の症例を通して発表していただき、武田孝之先生（東京歯科大学臨床教授）には、ご自身の長期の臨床経験をもとに、本治療法の難しさから警鐘を鳴らしていただくとともに、成功の要点をまとめていただいた。今

後、より求められると予想される審美領域におけるインプラント補綴に関して、本シンポジウムが学会としてのコンセンサス確立の一助となったと確信している。

以下に、座長としてのまとめを記したい。

#### ◆ 術前準備

- ・主訴の真摯な受け止め：要求の程度、性格
- ・診察・検査の重要性：その際の手段は？  
（軟硬組織の形態および性状、咬合状態、習癖、ほか）
- ・前処置  
（例：ソケット・プリザベーション、骨移植、ほか）
- ・治療計画の立案：起こりうる問題の説明
- ・フィクスチャーの種類（材質、形状、サイズ）  
抜歯から埋入までの時間、1回法か2回法か？
- ・加重開始時期

#### ◆ 外科学的観点からの注意点

- ・存在する骨量、形態、骨質
- ・起始点、形成窩の角度、埋入深さ、インプラント間距離、隣在天然歯との距離
- ・生体組織の許容範囲内に収まるように  
→サージカル・ガイドの重要性
- ・骨造成（水平的、垂直的）：その経年的安定性は？  
骨移植、骨補填材、軟組織移植、PRF 適用時の注意点

#### ◆ 補綴学的観点からの注意点

- ・アバットメントの選択  
（種類、形状、材質、連結方法、ほか）

<sup>a</sup> 東京歯科大学臨床教授／東関東支部

<sup>b</sup> 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 再生修復医歯学部門 顎口腔再建医学講座 口腔顎顔面補綴学分野

<sup>a</sup> Clinical Professor, Tokyo Dental College/Higashi-Kanto Branch

<sup>b</sup> Oral and Maxillofacial Prosthodontics, Institute of Health Biosciences, The University of Tokushima Graduate School

- ・プロヴィジヨナル・レストレーション
- ・歯科技工士との密な連携
- ・咬合調整を含めた補綴学的な総合調整

#### ◆アフターケア

- ・患者自身, 医療従事者, 介護従事者 (含む家族) に対する教育
- ・定期診査の実施
- ・状況の変化により目標の転換  
例: 審美回復から清掃性重視へ

#### ◆問題発生の場合の対処法と責任の所在

---

著者連絡先: 小宮山 彌太郎

ブローネマルク・

オッセオインテグレーション・センター

〒102-0082

東京都千代田区一番町27開新堂ビル4階

Tel: 03-5275-5766

Fax: 03-5275-5767

E-mail: yataro@teabreak.jp

